

自己の生き方についての考えを深め、共によりよく生きる児童を育む道德教育

～多面的・多角的に考え、交流する授業づくりを通して～

大泉町立東小学校 森下 千秋

I テーマ設定の理由

全国小学校道德教育研究会の研究主題である「自己の生き方についての考えを深め、共によりよく生きる児童を育む道德教育」を基に、はばたく群馬の指導プランより、「常に自己を見つめながら、他者とともに多様な視点から話し合うことを通して自己のよりよい生き方を考えていく」授業実践が大切であることに至った。また、児童の実態として、「主体的に自分の意見がもてない、他者の意見を柔軟に受け入れることが難しい」などが挙げられる。

以上の事から、多面的・多角的に考え、交流する授業づくりを通して、自己の生き方についての考えを深めたり、他者と共によりよい生活ができたりにする児童の育成を目指し、テーマを設定した。

II 実践例①（3年）

1 主題名 きまりは何のため（内容項目C-（11）：規則の尊重）

教材名 こまるのはだれ？これでいいのかな？

2 主題設定の理由

（1）ねらいとする道德的価値について

中学年の発達段階においては、これまでの学習からきまりの存在と守っていくことの大切さには気付いている反面、「これくらいならよいだろう」「きまりはあるけど、守らなくても大丈夫」といった、自分本位な解釈をしてしまっている場面も多く見られる。

そこで、きまりを守ることのよさについて理解し、それらを守っていくことが集団生活をよりよいものにしていくことに気づき、自ら進んで守っていくとする態度を養うことが大切である。

（2）児童の実態

本学級の児童は、これまでの学校生活において、集団での生活の中では様々なきまりがあること、そして、そのきまりを守っていく大切さについては理解している。しかし、多くの児童が自分本位に判断したり、周囲に同調したりして、きまりを守れていない場面が見られ、規範意識の低さが見られる。

これらのことから、本授業を通して「きまりは集団生活を送る上で、だれもが気持ちよく生活するために決められているものであり、その意義を守っていくことは、よりよい生活において必要なものである」ことを理解し、改めてきまりを守っていくとする態度を育てたい。

（3）教材について

本教材は、様々なきまりを学級で決めたが、「私は関係ない、自分の責任ではない」と、一人一人の当事者意識が薄く、きまりを守っていくとする態度が伴っていないことについて考えることができる。きまりを守り気持ちよく生活していく上で大切なことに気付くことのできる適切な教材となっている。

3 ねらい

自分の意見をもった上で交流することを通して、きまりを守ることの大切さに気づき、進んできまりを守ろうとする態度を育てる。

4 展開

主な学習活動	◎中心発問 ◇補助発問	○指導上の留意点 【★ICTの活用】
1 本時で扱う道德的価値について問題意識を持ち、教材文の感想から本時の主題を決定する。 (10分)	◇「きまりは守れなくても、気付いた人が行動することが大切だと思いますか。」	○事前アンケートの結果を提示し、きまりに注意しながら範読を聞くよう促す。【★提示】 ○教材の内容を把握できるように、場面絵を並べて提示し、きまりを決めるだけではうまくいかないことを整理する。【★提示】 ○児童とのやり取りで、本時の主題を設定する。
<めあて> 「きまり」と「気づいた人」どちらが大切だろう。		

<p>2 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(30分)</p>	<p>○自分の意見をもちやすいように、ワークシートのチャート上に気持ちを表現させる。</p> <p>○立場が異なる数名に理由を聞き、黒板にもチャートで板書する。</p> <p>○自我関与を促すため、自分たちの学級に置き換えて考えさせ、チャート上に色を変えて印をつけてその理由も記述する。</p> <p>○交流の際には、教室内をチャート上に模して自分が印をつけた位置に移動させ、立場が視覚的に分かるようにし、同じ位置の人、異なる位置の人の理由を聞いてくるよう促す。</p> <p>○児童の言葉から、なぜきまりがあった方がいいのかについて考えられるよう促す。</p>
<p>◇「“きまり”と“気づいた人”どちらが大切だと思いますか。」</p>	
<p>◎「3年1組だったらどちらを大切にしたいですか。」</p>	
<p>◇「きまりがないとなぜ困りますか。やらない人がいるとなぜいけないですか。」</p>	
<p>3 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてももう一度考える。(5分)</p>	<p>○他者の考えを参考にしながら、自分の考えをまとめられるように、道徳的価値に迫る児童の考えを意図的に指名し、きまりをまもることのよさについて考えるよう促す。</p>
<p><振り返り> S：気づいてやることも大切だけど、みんなが気持ちよく過ごすにはきまりを守ることも大切。</p>	

II 実践例②(5年)

1 主題名 勝つよりもすてきなこと (内容項目B- (10) : 友情、信頼)

教材名 ドッジボールを百倍楽しくする方法

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

男女の隔てなく相手の考えを尊重し、よさを認め合ってよりよい友達関係を築いていこうとするのがねらいとする児童の姿である。「自分の見方を変えることで、友達によさに気づけること」や「クラスの友達を理解し、信頼し合いながら生活できるようにすること」など、勝つことよりも大切なことに気づかせるようにしたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、男女の隔てなく仲良くできる児童が多い。話し合いの場を設けると、活発に意見が飛び交い、自由に意見を言い合える学級である。しかし、自分の意見を通そうとしてしまったり、友達のを受け入れられなかったりする児童もいる。また、クラスレクで、男子は楽しそうに活動していたのに、女子はうまく参加できないということもあった。そこで、自分たちの普段の様子や体験を振り返る場を設けることで、さらに自分ごととして考えを深めることができると考える。

これらのことから、本授業を通して勝つことよりも大切なことに気づかせるようにしたい。そして、友達との関係をよりよくし、休み時間やクラスレクで男女の隔てなく、どの遊びでも楽しく遊べるようなクラスの雰囲気づくりをしていこうとする態度を育てたい。

(3) 教材について

本教材は、互いのよいところを認め、相手の考えを取り入れることで、よりよい人間関係が築けるようになることに気づかせる教材である。

主人公が「勝つよりいいことがあったような気分だ。」と感じた場面を取り上げ、「『勝つよりいいこと』って何だろう。」と投げかけることで、勝つことばかりに意識が向いていたわたしの見方が変わり、友達のことを理解したり、友達によさに気づけたりしたという教材になっている。

3 ねらい

授業前に行ったアンケートと授業の後半に行ったアンケートを提示し、比較することで、「よい友だち」についての考えが深まったことが実感できるようにする。

4 展開

主な学習活動 ◎中心発問 ◇補助発問	○指導上の留意点 【★ICTの活用】
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(5分)【★データの共有】</p> <p><めあて> 「よりよい友だち関係について考えよう。」</p>	<p>○事前にアンケートをとっておくことで時間短縮になり、データの共有をした後、すぐにめあての設定に移れるようにする。</p> <p>○「よい友だち」について、それぞれが頭ではわかっているが、実際にはよい友だち関係が築けていないことに気づかせ、問題意識をもたせるように、児童の考えをゆさぶる投げかけをする。【★意見の共有】</p>
<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。(5分)</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(13分)</p> <p>◇「わたし」がこのクラスに点数をつけるとしたら、はじめと後では、それぞれ何点でしょうか。</p> <p>◎はじめと比べて、クラスの中で何が変わったのでしょうか。</p> <p>◇最後、決勝で負けてしまったけれど、「わたし」は本当にくやしくなかったのでしょうか？</p>	<p>○このクラスがどのように変わったかについてとらえやすいように、登場人物の「わたし」になりきってクラスに点数をつけてその根拠を考えさせたり、考えをペアで交流させたりする場を設ける。</p> <p>○わたしや駿君の考え方や行動が変わったことに気づけるように、まずは「はじめと比べて何か変わったか」と問いかける。</p> <p>○登場人物の行動や心の変化が見えるように、キーワードを使って板書する。</p> <p>○「わたし」がこのクラスにつけた点数が、はじめに比べて後の方が高くなっていることに再び着目して、本当に後の方に高い点数をつけてよいのか、児童の考えをゆさぶる投げかけをする。</p>
<p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。(15分)</p> <p>◇この間行ってきた林間学校では、友だちと仲良くできましたか。友だちを大切にできましたか。</p> <p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。(7分)【★データの保存・提出】</p> <p>◇よい友だちとは、何でしょうか？</p>	<p>○自分の行動を反省したり、今後目指していきたい姿について考えたりできるようにするため、最近の行事である林間学校の様子をふりかえる場を設ける。</p> <p>○授業を通して考えが深まったことが実感できるようにするため、「よい友だち」についてもう一度アンケートをとり、授業前と授業後の内容を比較する。【★意見の共有】</p>
<p><振り返り></p> <p>S：今までは仲良くできなかった人のいいところを見つけて、仲良くできるようにしたい。</p> <p>S：男の子にも女の子にも、誰にでも優しくできるようになりたい。</p>	

Ⅲ まとめ

<成果>

児童が主体的に授業へ参加するために、事前アンケートを活用した「めあて」を作成することができた。また、チャートを使って自分の立場を示させることによって、全員が自分の立場を表すことができ、その後の活発な交流につながった。

交流の際に、教室内を移動させたり、考え方ごとにまとまったりしたことで、クラスの中の分布が明確になり意見交流がしやすくなった。必要に応じて、ペア学習や教室内を移動して様々な考えに触れるなど、複数の方法での意見交流ができていた。中心発問に対する多面的な意見を出させることに効果的であった。

<課題>

授業者が意図する流れに近づけたり、主題について児童が深く考えたりできるように、机間支援をしながら児童の発言や記述を観察し、意図的指名をしていくことを取り入れたい。価値に迫るために、児童の反応を予想し、複数の切り返しの発問を準備して児童の考えを揺さぶっていくことが重要になる。

また、出てきた意見をどのように扱い、まとめていくかが難しい。様々な意見を聞いて広がった中で、自分に落とし込んで納得できる自分なりの答えを導き出すような流れが必要になってくる。

発問は、一言変わるだけで意味合いが変わってくる。児童にじっくり考えさせる時間をもたせるために、発問の精選をしていく必要がある。